

広島県経済の動向

令和元年11月1日

商工労働局

目 次

I	経済動向の概要	1
	1 国内経済の動向	
	2 広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
	1 鉄鋼	
	2 自動車	
	3 造船	
	4 一般機械	
	5 電気機械	
III	中小企業の動向	5
	1 概況	
IV	企業倒産状況	7
	1 概況	
	2 業種別	
	3 原因別	
	4 今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	8
	1 県内の有効求人・求職の動向	
	2 県内の新規求人・求職の動向	
	3 県内の人員整理の状況	
	4 完全失業率の状況	

I 経済動向の概要

1 国内経済の動向

(1) 概要

指 標	R 元年		
	8 月	9 月	10 月
基調判断	景気は、輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。		景気は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、緩やかに回復している。
輸 出	弱含んでいる。		
生 産	横ばいとなっているものの、一部に弱さが続いている。		このところ弱含んでいる。
設 備 投 資	機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。		
雇 用 情 勢	着実に改善している。		
個 人 消 費	持ち直している。		
住 宅 建 設	おおむね横ばいとなっている。	このところ弱含んでいる。	
企 業 収 益	高い水準で底堅く推移している。		

(2) 先行き

先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。また、令和元年台風19号など相次ぐ自然災害の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和元年10月18日公表）】

2 広島県経済の動向

(1) 概要

指 標	R 元年		
	8 月	9 月	10 月
基調判断	緩やかに拡大している。	一部に弱めの動きがみられるものの、 緩やかに拡大している。	
輸 出	基調としては緩やかに増加している。	横ばい圏内で推移しているが、 一部に弱めの動きがみられている。	
生 産	緩やかに増加している。	横ばい圏内で推移しているが、 一部に弱めの動きがみられている。	
設備投資	緩やかに増加している。		
雇用情勢	着実な改善を続けている。		
個人消費	持ち直している。		
住宅投資	持ち直しの動きがみられる。	横ばい圏内で推移している。	

(2) 県内の経済の状況

需要項目別に概観すると、公共投資は復旧・復興需要がみられる中で、増加している。設備投資は緩やかに増加している。個人消費は持ち直している。住宅投資は横ばい圏内で推移している。輸出は横ばい圏内で推移しているが、一部に弱めの動きがみられている。

生産は横ばい圏内で推移しているが、一部に弱めの動きがみられている。雇用・所得環境は着実な改善を続けている。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%程度となっている。

先行きの景気は、緩やかな拡大基調を続けるものとみられる。なお、公共投資を中心とした復旧・復興需要による景気全体の押し上げが継続するとみられる一方、消費税率の引き上げの影響や米国の保護主義的な通商政策、中国を始めとする新興国・資源国経済の動向は、下振れリスクとして注視する必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（注）令和元年11月1日公表】

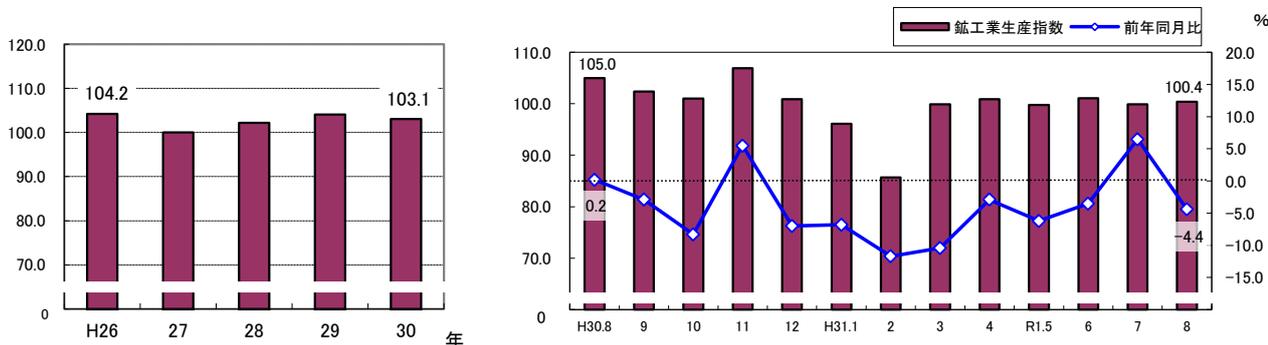
II 県内主要製造業の生産動向

1 鉄鋼（令和元年8月）

8月の鉄工業生産指数（鉄鋼業，原指数，速報値，平成27年＝100）は100.4で，前年同月比で4.4%低下となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別, 月別・前年同月比)

【県統計課】



○最近の景況

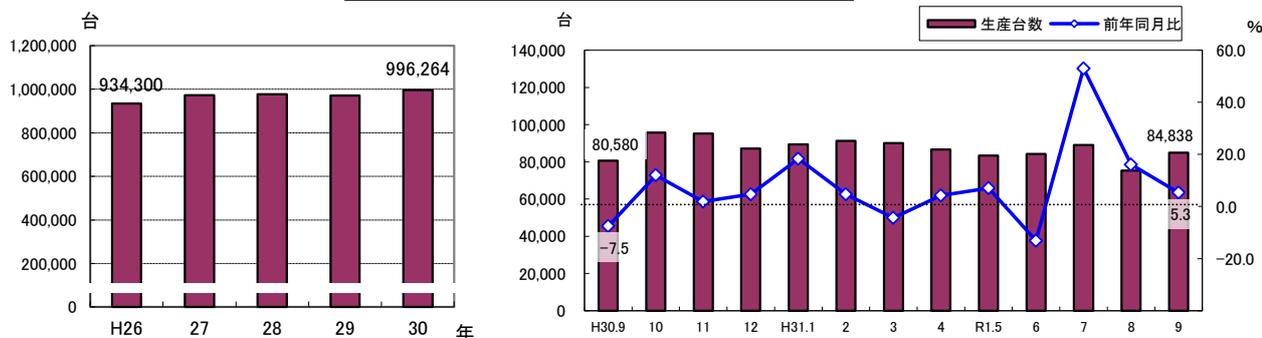
横ばい圏内の動きとなっている。

2 自動車（令和元年9月）

9月の国内生産台数は84,838台で，前年同月比で5.3%増加となっている。

自動車生産台数(年別, 月別・前年同月比)

【マツダ(株)】



○最近の景況

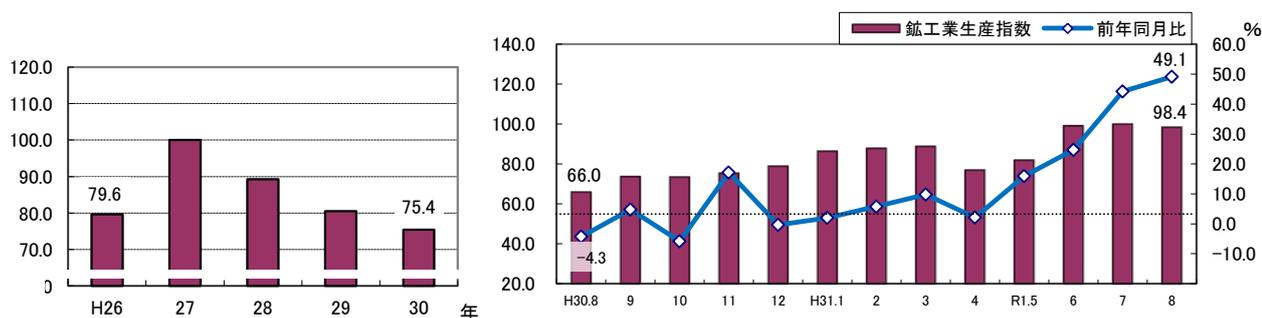
横ばい圏内の動きとなっている。

3 造船（令和元年8月）

8月の鉄工業生産指数(造船部門，原指数，速報値，平成27年＝100)は98.4で，前年同月比で49.1%上昇となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別, 月別・前年同月比)

【県統計課】



○最近の景況

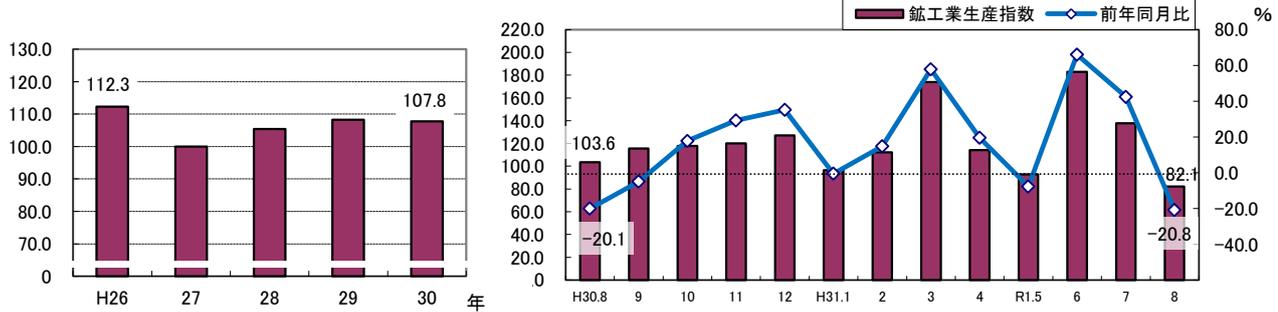
高操業となっている。

4 一般機械（令和元年8月）

8月の鉱工業生産指数（一般機械工業，原指数，速報値，平成27年＝100）は82.1で，前年同月比で20.8%低下となっている。

鉱工業生産指数（一般機械）（年別，月別・前年同月比）

【県統計課】



○最近の景況

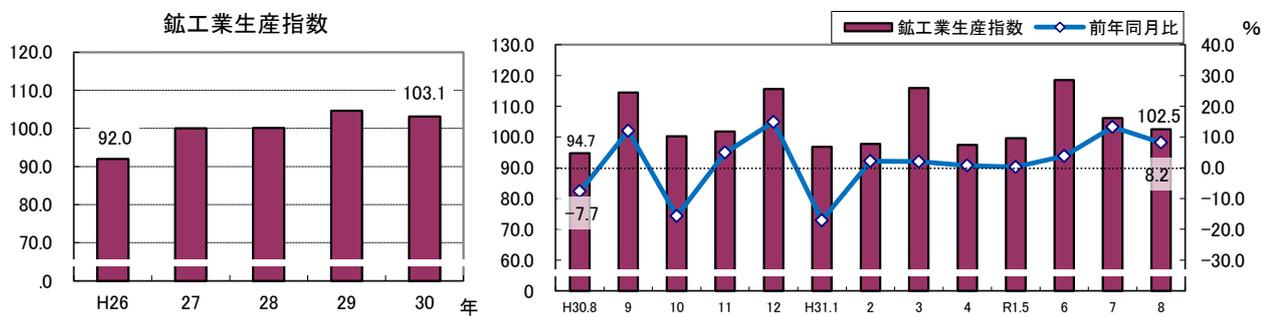
足もと弱めの動きがみられている。

5 電気機械（令和元年8月）

8月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合），原指数，速報値，平成27年＝100）は102.5で，前年同月比で8.2%上昇となっている。

鉱工業生産指数（電気機械工業（総合））（年別，月別・前年同月比）

【県統計課】



○最近の景況

緩やかに増加している。

※ 「最近の景況」は，令和元年11月1日公表の日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」より転記。

Ⅲ 中小企業の動向（令和元年9月）

【広島県中小企業団体中央会】

1 概況

自動車関連業種では、国内自動車販売台数が前年同月比12.9%増加と3ヶ月連続の前年超えとなり、マツダ車の国内販売台数も2ヶ月ぶりの前年越え、前年同月比21.3%増加に転じたものの、海外販売合計台数は前年同月比1.3%減少と12ヶ月連続の前年割れとなった。

木材業界では、全国住宅着工数は前年同月比7.1%減少と2ヶ月連続の前年割れとなり、広島県内の住宅着工数も前年比14.1%減少と2ヶ月連続の前年割れとなった。

消費税率引き上げに伴う影響は業種業態により様々であったが、需要の平準化対策効果もあるのか、前回8%への引き上げ時より駆け込み需要及び反動減は少ないようである。

消費税率引き上げの他、米中貿易摩擦や中東情勢の影響により、今後の先行きを懸念することが多く聞かれる。

景況 天気 図	業種	8月の景況感	9月の景況感	業種	8月の景況感	9月の景況感
	食料品			一般機械器具		
	繊維・衣服			電気機械器具		
	木材			自動車部品		
	家具			造船		
	印刷			建設		
	化学			トラック輸送		
	プラスチック製品			内航海運		
	土石製品			卸売		
	鉄鋼(鋳物)			小売		
	金属製品			情報サービス		

好況
 やや好況
 普通
 やや悪い
 悪い

(1) 景況感の変化

景況感	業種数		
	8月	9月	増減
好況	1	1	0
やや好況	0	1	1
普通	5	5	0
やや悪い	11	11	0
悪い	3	2	▲ 1

(2) 前月（8月）から変化のあった主な業種

業種	8月の景況感	9月の景況感	変化の理由・状況
食料品	悪い	やや悪い↑	9月の出荷量は前月比3.4%増加、前年同月比3.3%増加となり、売上高は前月比6.7%増加、前年同月比4.3%増加となった。 【中国醤油醸造協同組合】
木材	普通	やや悪い↓	県全体の住宅着工動向は前年同月比で2ヵ月連続の減少となり、地域ごとにばらつきが見られる。プレカット工場も地域や工場によって受注状況に差が生じている。 【広島県木材協同組合連合会】 原木の出材が減少し、丸太相場は桧を主体に上昇した。丸太高製品安の傾向が強い。新築住宅は増税後の施策が手厚いため、駆け込み需要はほとんど感じられなかった。様々な業界で景況感が悪化していると感じており、特に梱包材など産業用資材の需要落ち込みが著しい。 【広島県北部国産材加工協同組合】
土石製品	やや悪い	やや好況↑	9月の出荷状況は3,219m ³ で、前年同月比14.4%増加、前月比27.2%増加だった。 【広島地区生コンクリート協同組合】
造船	やや悪い	普通↑	県内2,500総トン以上の令和元年8月の船舶建造許可実績は5隻、298,750総トンであった。 なお、5隻は全て輸出船で貨物船であった。 【中国地区造船協議会】

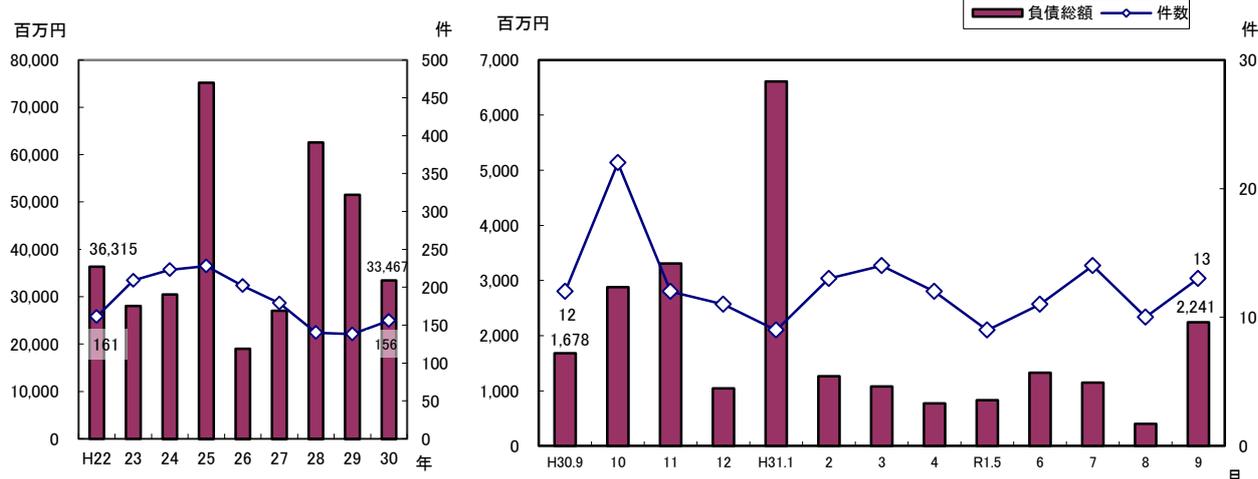
IV 企業倒産状況（令和元年9月）

1 概況

9月の県内企業の倒産状況（負債総額1,000万円以上）は、件数が13件、負債総額が22億4,100万円で、前月と比較すると件数は3件増加、負債総額は18億4,000万円増加した。前年同月と比較すると、件数は1件増加し、負債総額は5億6,300万円増加した。大型倒産（負債総額10億円以上）は1件発生した。

区 分	令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月
件 数 (前年同月比)	14件 (+ 1件)	10件 (+ 1件)	13件 (+ 1件)
負債総額 (前年同月比)	1,145百万円 (▲ 58.3%)	401百万円 (▲ 96.7%)	2,241百万円 (+ 33.6%)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別・月別・前年同月比)



2 業種別

件数は、卸・小売・飲食業が7件、建設業が3件、サービス業が2件、運輸・通信業が1件となった。

負債総額では、運輸・通信業、卸・小売・飲食業、サービス業、建設業の順となった。

3 原因別

原因別では、販売不振が9件、シワ寄せが3件、過小資本が1件であった。

4 今後の見通し

令和元年9月度の県内倒産件数は前年同月比4ヵ月連続増加となり、10億円以上の大型倒産が1件発生して負債総額でも前年同月比3ヵ月ぶりの増加となったものの、引き続き中小零細規模の小口倒産が大半を占める状態にある。

広島労働局が発表した広島県令和元年9月の有効求人倍率は1.99倍で、17ヵ月ぶりに1倍台となったものの、10月1日から広島県の最低賃金はこれまでの844円から3.2%アップ（27円増）の871円となったこともあり、企業の雇用環境に対する負担は重くなっている。また、米中貿易摩擦や日韓関係の悪化は長期化しており、国際情勢が不安定な影響などから日銀広島支店が10月1日に発表した令和元年9月調査の短観で「最近」と「先行き」について、広島県内企業は前回調査よりも落ち込んでいるなど先行きの業況の不透明さが増してきている。

令和元年10月の消費税増税前に駆け込み需要などの恩恵を受けた企業もあるが、消費税対応への設備投資や先行きの市況悪化の見通しなどから9月末を以って事業を止めることを判断した企業も発生しており、今後も財務体質の弱い企業の息切れが予想され、事業性の評価が得られない企業についても資金需要が活発になる年末に向けて倒産件数が増加していく可能性が高まってきており、楽観できない状況が続いている。

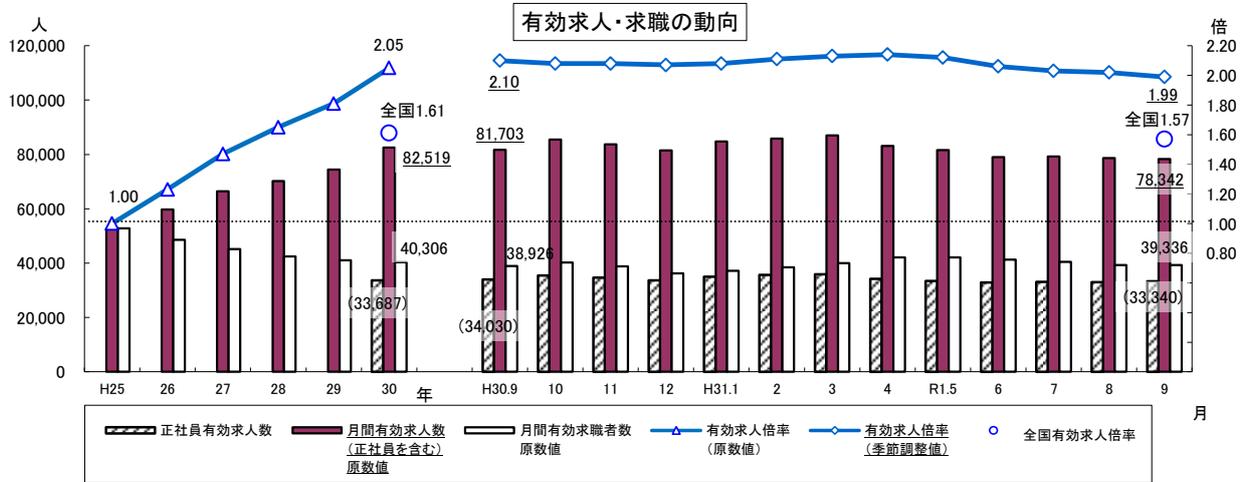
【(株)東京商工リサーチ】

V 最近の雇用失業情勢（令和元年9月）

1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.03倍 (▲ 0.03ポイント)	2.02倍 (▲ 0.01ポイント)	1.99倍 (▲ 0.03ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.36倍 (+ 0.01ポイント)	1.39倍 (±0.00ポイント)	1.40倍 (▲ 0.03ポイント)

【広島労働局】

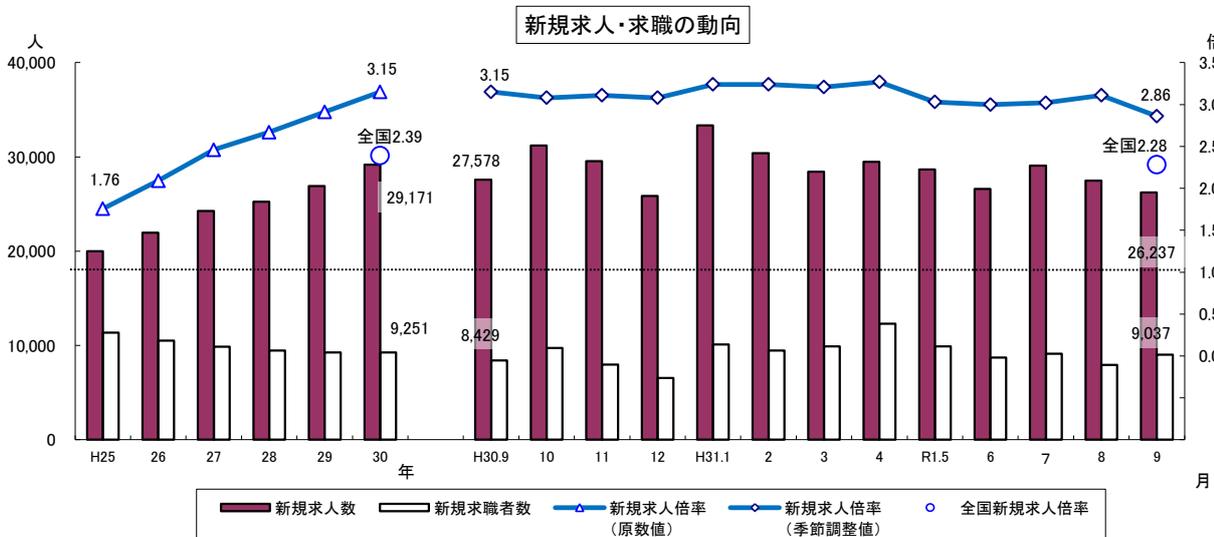


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
- (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
- (注3) 平成30年12月以前の季節調整値は改訂されている。（平成31年1月分公表時改訂）

2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	3.02倍 (+0.02ポイント)	3.11倍 (+0.09ポイント)	2.86倍 (▲0.25ポイント)

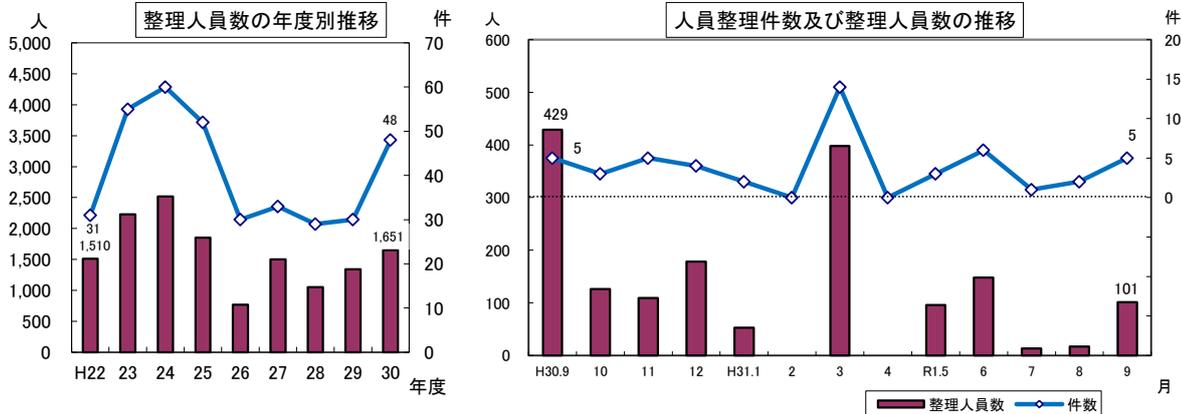
【広島労働局】



3 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月
件数 (前年同月比)	1件 (▲ 2件)	2件 (▲ 3件)	5件 (±0件)
整理人員 (前年同月比)	13人 (▲ 48人)	17人 (▲ 412人)	101人 (▲ 328人)

【広島労働局】

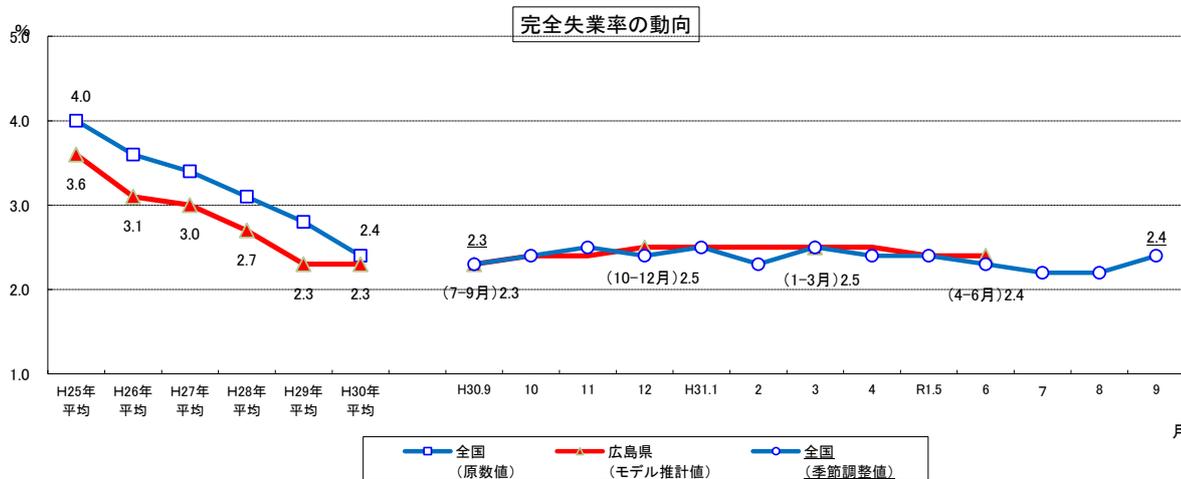


4 完全失業率の状況

区 分	令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月
全国完全失業者数 (前年同月比)	156万人 (▲ 16万人)	157万人 (▲ 13万人)	168万人 (+ 6万人)
全国完全失業率(季節調整値) (前月比)	2.2% (▲ 0.1%)	2.2% (±0.0%)	2.4% (+ 0.2%)

区 分	平成30年	平成31年・令和元年	
	10～12月期平均	1～3月期平均	4～6月期平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前期比)	2.5% (+ 0.2%)	2.5% (±0.0%)	2.4% (▲ 0.1%)

【総務省統計局】



※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。